

第117回常設審議委員会

農業会議は12月19日、第117回常設審議委員会を大阪市内・JABANK大阪信連事務センターで開いた。

第1号議案の農地法第4条及

び第5条の規定に基づく意見聴

取に回答する件(高槻市、茨木

市、能勢町、和泉市、田尻町、

泉南市、阪南市、堺市、富田林

市、松原市、大阪狭山市農業委

員会会長) 25件(9万7829

平方メートル)を許可やむを得ないと

認め、回答することを議決した。

【第1号議案】

件数 面積(平方メートル)

第4条 2 1083

第5条 23 9万6746

吹田市、貝塚市で農委研修

吹田市農業委員会(吉田俊之
会長)は11月26日、貝塚市農業

合計 25 9万7829

(農地区分別件数は、3種農地

13件、2種農地10件、1種農地
2件)

委員会(古家克之会長)は12月
8日、それぞれ農委研修会を開
催し、農地法や農委・農業をめ
ぐる情勢をテーマに研修した。

私は、大阪の南河内地域に位置する河南町でハ

ウスいちごを栽培している。この冬で新規就農3

年目のシーズンとなる。非農家出身である私は、本格的な農業経験はゼロ

だった。自宅の庭で、家庭菜園を趣味で楽しむ程度だった。前職は、コン

サート会場などで照明を操作する照明オペレーターという職についており、農業とは全く違うエ

ンターテインメント業界で働いていた。人を楽しませるサービス業で働く

うちに、いつか自身の経験を生かして、生まれ育った故郷に直接還元が

出来る職に就きたいと考えるようになった。

そこで、生活に不可欠な「食料生産」を行う農業についてじっくり学んでみたいと思い、前職を

思い切つて退職。大阪の農業大

学校へ入学した。農業大学校ではぶどうを専攻。学生生活と並行しながら、知識

を深める為に野菜ソムリエの資格取得や、地元の果樹農家のもとで経験を積んだ。その頃、授



毎屋つむぎ

代表 田中 麻綾

「今こうで農業が出来る
ことに感謝して」

指す中で自分は今後何を栽培していくか考える機会があった。これから長く続く農業人生。自分自身が、身体的にも負担が少

なく作業を行える高設いちごに興味をもった。何より、いちごの栽培過程の作業内容が自分に

合っているように感じた。そこで、大阪の南河内地域で新規就

農を目指す。理想の土地は簡単には見つからない。何度も農地へ足を運

を揃える理想の土地は簡単には見つからない。何度も農地へ足を運

を運んだら条件が合わずを繰り返した。探し始めて1年半ほどでやっと見つかった候補地。営

農計画などをまとめて、地主の方へ説明したが「女性一人では難しいでしょ」と断られた。

「もう新規就農は、諦めたほう

がいい」そう神様に言われていたようにも感じ、落ち込んだ。それでも続けられたのは、当時いちごアカデミーで指導してくださった講師の言葉だった。「希望の農地が無いからと、ここで諦めたらあかん。絶対に次に見つかるから」と諦めないよう背中を押してくれた。

本当に不思議なことにその後すぐ、いちごアカデミーで出会った先輩農家の方の紹介で条件に合う耕作放棄地が見つかった。農地探しは、ものすごく大変だった。でも、その過程で出会った人たちに支えられ、こうして今いちごを育てられることに本当に感謝している。

私には夢がある。それは、地域の高齢者施設に笑顔溢れる、小さないちご園をつくることだ。高齢化が進む故郷に、いちごを通して幸せを届けたい。それが私の夢であり、同時に叶えたい目標である。

就農1年目の直売で、心に残

◇筆者の紹介(たなか まあや)

河内長野市の非農家出身。農大在学中には全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会で最優秀賞である農林水産大臣賞を受賞。令和5年にいちご農家として独立。